

項目	観点	教科書名	
		中学音楽 音楽のおくりもの(17・教出)	中学生の音楽(27・教芸)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために扱う内容の選択について	○音楽を愛好する心情を育てるために、どのように配慮されているか。	・「音楽の要素、様々な音楽文化、歌い合わせ聴き深める喜び」の3つの柱で題材が構成され、バランスよく学習ができるよう配慮されている。 ・生徒が共感できるような内容の歌詞の楽曲を取り入れ、生徒の興味・関心を高めるとともに、音楽を愛好する心情を育てる配慮がなされている。 ・楽曲の解説が理解しやすく、資料も充実している。	・歌唱・創作・鑑賞の三つの活動に分けて題材が設定され、ねらいが明確に示されていることにより、幅広く音楽の学習ができるように配慮されている。 ・活動内容や学習のポイントがわかりやすい言葉で明示されていることにより、主体的に音楽活動ができるように配慮されている。 ・音楽を愛好する心情を育てるために、オリジナルの新曲や親しみやすい楽曲が多く掲載されている。
	○音楽に対する感性を育てるために、どのように配慮されているか。	・表現及び鑑賞の学習が、バランスよく位置づけられ、音楽のよさや美しさを広く味わうことができるよう配慮されている。 ・楽曲が作られた背景や作詞者の言葉などが掲載されており、その曲についてイメージをふくらませたり、曲のよさを容易に感じ取ったりできるよう配慮されている。	・表現及び鑑賞において教材や活動の関連が明確に示され、音楽のよさや美しさを深く味わうことができるよう配慮されている。 ・日本の曲と外国の曲をバランスよく盛り込み、曲趣に合った表現ができるように題材構成が配慮されている。
	○我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度を養うために、どのように配慮されているか。	・日本の伝統的な音楽の特徴などを基にした体験的な表現活動を通して興味・関心を高め、音楽文化への理解が深まるよう配慮されている。 ・様々な分野の音楽についての解説が充実している。 ・音楽年表は、それぞれの時代の特徴の解説が丁寧に書かれており、作曲者の活躍した時代を比べられるように配慮されている。 ・口絵に我が国や諸外国の作曲家のエピソードを取り上げ、生徒の音楽文化への興味・関心が高まるように工夫されている。	・我が国の伝統的な歌唱や長い間歌い継がれてきた日本の歌を数多く取り上げ、我が国の音楽文化に触れる機会が多くなるよう配慮されている。 ・日本の伝統的な音楽について、鑑賞と表現を関連付けて学習できるよう工夫されている。 ・日本の伝統的な音楽や諸外国の民族音楽など学年段階に応じて幅広く学習できる教材が掲載され、それに関する資料や鑑賞するときのポイントもわかりやすく明示され、音楽文化への理解が深まるよう配慮されている。 ・音楽年表については、各時代の特徴が簡潔に示され、年表の中にその時代に活躍した作曲家を盛り込むなどわかりやすく工夫されている。
2 内容の程度及び取扱いについて	＜基礎・基本の定着のための工夫＞ ○表現及び鑑賞の活動に必要な基礎的な能力を培うために、どのような工夫が見られるか。	・共通事項が各教材で同じ場所(ページ右上)に示されており、巻末の楽典のページとリンクしているので、基礎的な音楽用語等を確認しながら学習に取り組めるよう工夫されている。 ・発達の段階に応じた教材や活動を取り入れた段階的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用が図れるように工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素についての具体的な解説が、3学年共通して掲載されている。	・目次とは別に、音楽学習マップがあり、楽曲と共通事項との関わりが明示されている。 ・ゲーム形式の活動を用いて、小学校の学習内容を含む前学年までの復習を兼ねた音楽用語等の基礎的な内容を楽しみながら学習できるように工夫されている。 ・教材や活動内容を系統的に発展させていく学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用が図れるような工夫が見られる。
	＜関心・意欲を高め、主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○音楽のよさや美しさを感じ取らせ、主体的な表現及び鑑賞の活動を促すために、どのような工夫が見られるか。	・学習目標が具体的に示されており、主体的に活動に取り組めるように配慮されている。 ・作詞者や作曲家からのメッセージが掲載されるなど参考資料が多く、楽曲への興味・関心が高まるように工夫されている。 ・身近な食べ物を素材としたリズムやCMソングを創作させるなど、生徒の興味が高まるような教材が選択されている。 ・箏においては「一般」「器楽」両方に取り上げられおり、また雅楽や歌舞伎などの伝統音楽との関連を図りながら指導できるように配置されている。	・学習目標が共通事項と関連付けられて、わかりやすく示され、生徒が主体的に学習に取り組めるように配慮されている。 ・楽曲の背景がわかるような写真や歌詞の注釈、学習の手順を具体的に示した資料が提示され、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ・巻末のページには「音楽のやくそく(楽典事項)」や鑑賞資料などが学年に応じてわかりやすく提示され、生徒が興味・関心をもちながら主体的に学習を進められるように工夫されている。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○自分の思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成するために、どのような工夫が見られるか。	・「伝えてみよう」コーナーがあることで、自分の思いや意図を言葉で表現しやすくなっている。また、自分の考えをお互いに伝え合えるようにワークシートは発問が工夫されている。 ・「音のスケッチ」コーナーがあり、工夫することによって、身近な素材を使って楽しく創作できる。 ・学習のポイントが吹き出しによって随所に示されており、生徒の思考・判断を促すような工夫がみられる。	・「マイメロディ」「レッツクリエイト」等のコーナーで、自分の思いや意図を表現する活動に取り組みやすいように工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素がポイントとして示されており、生徒の思考・判断を促す活動に取り組みやすいように工夫されている。 ・「グレードアップ」コーナーによって、段階的に発展的学習に取り組める。また、話し合うポイントが示されているので、生徒間の学び合い活動が深まりやすい。
3 構成・配列・分量	○各学年のねらいや発達の段階からみて、表現教材及び鑑賞教材の構成・配列や内容の系統性については、どのような特色があるか。	・3つの柱を基に創作のページを「Let's sing」「Let's Try」として一貫性をもたせ、系統的に学習できるように工夫され、基礎的な知識や技能の習得が図れるような特色がある。	・義務教育9年間を見通し、小学校で学習した内容を系統的に発展させて学習することができるように配慮され、基礎的な知識や技能の習得が図れるような特色がある。
	○表現教材及び鑑賞教材の分量及び配分には、どのような特色があるか。	・3つの柱に応じて教材がバランスよく掲載され、様々な音楽活動に取り組めるような特色がある。 ・楽曲の解説など専門性が高く、学習に必要な資料が数多く掲載されている。	・発達段階に応じて無理なく取り組めるよう歌唱・鑑賞・創作の各活動がバランスよく掲載され柔軟に指導計画が作成でき、領域等の関連を図った学習ができるような特色がある。 ・我が国の伝統的な歌唱や長い間受け継がれてきた日本の歌が数多く掲載されている。
4 表記・表現	○楽譜や歌詞、説明文、挿絵、写真などの表記、表現について、どのような工夫が見られるか。	・カラフルな写真やイラストが多く使用され、鑑賞では楽曲の全体像が分かるような楽譜を示し、歌唱では情景を表した写真の上に歌詞を示して、生徒が音楽全体のイメージをもって学習できるような工夫が見られる。	・全体的にやさしい色合いでシンプルにまとめられ、鑑賞では特徴的な部分を抜き出した楽譜を示し、歌唱では楽譜と併せて縦書きの歌詞を示して、音楽の特徴などを捉えながら学習できるような工夫が見られる。
5 体裁・使用上の便宜	○製本、楽譜、文字の大きさなどの体裁や目次や巻末資料などの使用上の便宜等について、どのように配慮されているか。	・色覚の個人差に対応し、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ・各学年に折り込みのページを使い、大きな写真や詳しい説明など、資料を充実させ、学習に活用しやすいように配慮されている。	・楽譜が見開きで表示され見やすいように配慮されている。 ・色覚の個人差や特別支援教育の視点から、学習上重要な情報が確実に読み取れるよう、ユニバーサルデザインに配慮されている。